新鮮力

生まれる選択肢

戸塚区役所地域振興課
清水　誉

ご存知のように、今日の社会問題や市民の欲求＝行政の取り組むべき課題及びニーズは、多様化しており、提供すべきサービスも確実に増加している。そこで、行政単独での施策展開の困難性や市民と取り組む必要性から、課題やニーズごとに市民をメンバーとした組織を設置して事業が展開されてきた。

この行政主導で設立された団体は、交付金で活動し、事務局は行政内部に置かれることが多いため、組織としての自立性が乏しく、主体性も発揮しづらいのが現状である。しかし行政と団体との区分が不明確であるのは、市民の発意でなく行政主導で設立された以上、やむを得ないのかもしれない。

この構造的問題よりも気になるのは、活動の成果である。多くの場合、成果を数値で表しがたい。それは、こうした施策の直接の到達点は、市民にその課題に対する意識を持ってもらうことにあるからである。そして個々の市民の意識的な行動が、総体として課題の解決を図っていくのである。

従って成果は、イベントなどを行った際の参加者の感想や、後日耳に届く評判から判断することになる。良い感触が得られなければ、有効性を疑問視し、見直しが必要だ。市場原理が働かない分野にも、費用対効果の考えは大切だ。

さらには団体自体を見直す必要もあろう。今後、さらなる財政支出が見込まれる分野は多い。また、情報公開の進展は、行政主導型の団体も対象に入れよう。こうした情勢下、市民に還元されない事業を続けていては、存在の余地はなくなる。

一方、近年の市民活動は活発化し、分野にも拡がりが出てきた。中には、行政課題や市民ニーズに応えうる活動団体も出現し始めており、行政との関係としても、互いに立場が対等で適度な緊張関係が保てるメリットがある。

従来は行政主導型の団体のみが担っていた活動を市民団体も担うことで、既存団体の意識改革も始まるだろう。永年のノウハウを活かして奮起することを期待したい。同時に行政は、市民団体とパートナーシップを組み、その育成を図っていく必要がある。

今後は両団体が切磋琢磨することで、より多くの市民を巻き込んでいけるだろう。その先に市民全体の幸せが待っている。

行政は今、課題解決のツールに選択肢を持ち始めた。

あとがき

今回は、横浜独自の都市構造やまちづくりの施策、市民の生活行動や活動をコンパクトシティという観点から見直し、次世代のまちづくりのあり方を考察してみた。「コンパクトシティ」は、日本において、ましてや横浜において共通の認識をもって捉えられている概念ではない。原点は一九七〇年代、アメリカの都市のスプロール化への対応であり、日本では、最近、中核地方都市の中心商店街の活性化と都心居住を進める職住近接の都市の概念として登場した。神戸市においては、「神戸市復興・活性化推進懇話会」が「持続可能な都市づくり・地域発意のまちづくりー『コンパクトシティ』構想」を平成十一年三月に発表したところである。

さて、横浜市においては、どのような必要性と意味において「コンパクトシティ」は論じられるのか。まず、各局の企画担当の職員にお集まり頂き、「コンパクトシティ」について勉強しその捉え方を議論することから始めた。まちづくり戦略として、交通、中心市街地のあり方、流域や丘陵といった自然系の骨格の再認識、生活福祉ニーズを考察した市民の日常生活圏のあり方、事業や情報のしくみ等多面的にご執筆頂いた。このプロセスで計画や事業の企画を考える職員の横繋ぎの議論の場がもたれた。忙しい中でのわずかな時間だったが、横浜という都市の特性とあり方を異なるセクションで議論できたことの意味は大きいと思う。

横浜なりの「コンパクトシティ」は、深く縦割になっている行政が、もう一度、実態に即した横浜を知り、個別の施策の目的を重ね合わせていくツールとして極めて有効な概念ではないだろうか。議論はまだ端緒についたばかり。以降、深化すべき作業だと思う。

＜中川＞

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙三枚以内にまとめて企画局政策部調査課までお送りください。

FAX　六六三-四六一三
お問い合わせは、
電　話　六七一-二〇二九

調査季報総目次　136～138号

●第136号〈一九九八年十二月〉

特集・創造的コンベンション都市への道

都市にとってコンベンションとは何か

①コンベンションの本質を再考察する――猪口邦子

②都市戦略としてのコンベンションを考える――渡辺厚

創造的コンベンション都市をめざして

――久代雅之・渡辺政一

魅力ある都市の条件

①都市に充足、完成はありえない――木幡和枝

②インタビュー・伝説が街をつくる――村上実

③インタビュー・心を伝える「物語都市横浜」の創造

――野村万之丞

コンベンション・ビューローの機能と役割――森岡朋子

市民とコンベンション

①横濱JAZZプロムナード――うめもと實

②コンベンションと野毛という町――福田豊

③東海道という財産を持つ保土ヶ谷のまちづくり

――近藤博昭

事例から見るコンベンションの効果と今後

①フランス映画祭横浜――芳賀宏江

②国際エイズ会議――市川孝史・魚本一司

③ヨコハマ都市デザインフォーラム――国吉直行

自主研究レポート／連載①安政の開港、平成の邂逅

――村田和義

連載①／市営バス―七十年を迎えて　市営バス―七十年の歴史を考察――大保光興

新鮮力／未来を創る――越路浩也

●第137号〈一九九九年三月〉

特集・多様化する働き方とこれからの都市

多様化する働き方～担い手とその特徴――佐藤博樹

自治体現場からみた就労問題の諸相と就労支援

①地域における雇用の現状とその対策――板倉良雄

②中高年ホワイトカラー問題～神奈川人材銀行の窓口から――緑川征支郎

③女性就労の今日的課題――高田順江

④中小企業の動向と起業家支援――相澤武志

新しい働き方～その動向と課題

①座談会・起業するコミュニティーその可能性を探る

――大江守之・片岡勝・木下慶子・中野聰恭

市川孝史・石原敏明・南学

②コミュニティービジネスとしての家事代行サービス

主婦就労の場としての「オフィスポケット」――丹羽勝子

③コミュニティービジネスとしての情報サービス　し～ぷるねっと金沢――井上隆吉

④商店街の公益活動～福祉のまちづくり活動――市川俊明

⑤テレワークとこれからの都市生活――堀越久代

連載②／市営バス―七十年を迎えて　市営バス事業の現況と今後の方向性――大保光興

連載①／市民活動と自治体の協働に向けて

①市民活動先進地域としての横浜の課題

――小沢朗・重内博美・竹前大

②憲法八九条後段と「横浜コード」：憲法解釈論と政策論――青柳幸一

自主研究レポート／連載②安政の開港、平成の邂逅―みなとみらい21をめぐる歴史的背景――村田和義

調査＆政策研究／平成十年度横浜市民意識調査から

――企画局調査課

新鮮力／多角的な視野を持った行政マンに――石原従道

●第138号〈一九九九年六月〉

特集・自治体におけるPR

1　座談会・自治体におけるパブリックリレーションズ

――稲垣吉彦・山田雅通・宮永邦人・杉山正美・岡田優子・齋藤紀子・南学

2　市民との対話の現場から

①福祉調整委員会における苦情調整活動の現場から

――大澤隆

②対話と信頼のある関係をめざして

――森香里・黒田美夕起

③顔が見える関係～区と区民との共通理解の方法と課題

――藤田譲治

④税務窓口における市民との対応事例――久根口昭二

3　市民と自治体の共通理解のあり方

①市民と自治体の共通理解とは～自治体におけるPR概念の動向を踏まえて――三浦恵次

②市民と自治体の共通理解のために～タックスペイヤーの視点から――沖浦公隆

4　横浜市の広報・広聴――光田清隆・鹿嶋冨美雄

5　高度情報化時代のPR～インターネットによる質的変化――池谷敏・山口健太郎

連載②／市民活動と自治体の協働に向けて

――重内博美・小沢朗・竹前大

調査＆政策研究／横浜市学校給食用食器調査の結果と対応について――教育委員会事務局学校保健課

新鮮力／行政広報は広報紙が主役――松原正和

調査季報

139

1999年9月

編集・発行
横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017横浜市中区港町1-1
TEL.045-671-2029
1999年 9月 30日発行

横浜市広報印刷物登録
第110070号
類別・分類A-BA011
デザイン　サウスビア
印刷　株式会社ガリバー

ISSN0387-8899
この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています